

矢作川流域圏懇談会通信

勉強会編 vol. 1



発行日：平成 25 年 8 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆市民提案による第 10 回勉強会(生き物等調査)を開催しました！

8 月 10 日に第 10 回勉強会を開催し、市民企画会議として提案があった生き物等調査を、山・川・海連携して行い、日頃中々触れることのない矢作川源流の様子を調べました。

日 時：平成 25 年 8 月 10 日（土）10:00～18:00
調査場所：矢作川上流域の柳川周辺（長野県下伊那郡平谷村）
概略行程：10 時 新豊田駅 出発
12 時～13 時 道の駅信州平谷 昼食
13 時過ぎ～16 時 矢作川上流域の柳川周辺 調査
17 時半 新豊田駅 到着・解散
参加者：24 名（事務局含む）



◆主な活動内容

現地調査



- 生き物等調査の場所は砂防堰堤の直下流の渓流で、猛暑日の中でしたが、河畔林の木陰で源流域の水はひんやりと冷たく、暑さを忘れてしまうほど心地よい場所でした。
- 内田先生による水生昆虫の採まえ方の指導があり、それにならって、参加者は夢中に水生昆虫を捕まえていました。中でも、内田先生の学生さんの活躍ぶりが光っていました。



内田先生による水生昆虫の採り方指導



内田先生による水生昆虫の採り方実演



網に入った水生昆虫を捕まえる様子

- 皆で水生昆虫を捕まえた後は、内田先生から水生昆虫のレクチャーをいただきました。
 - ・この辺りは、カワゲラが多く、キカワゲラが特徴的である。
 - ・ムカシトンボは、生きている化石と言われ、日本やヒマラヤの一部にしか生息しない。
 - ・ヒゲナガカワトビケラは、クモのように石と石の間に網を張って、ひっかかった落ち葉などを食べる。河床が安定している場所に生息。
 - ・上流の砂防ダムで土砂が止まっているので、河床が安定していると考えられる。



内田先生によるレクチャーの様子

水源付近の生き物等の調査を行う中で、市民が懇談会の中で活躍していく上で、更なる勉強が必要であることが改めて認識されました。

鳥類調査は、早朝から有志を募って実施されました。残念ながら、カワガラス 1 種のみが発見でした。

◆調査結果

- 砂防ダム直下の溪流で約1時間の調査を行い、カワゲラやトビケラ、ヘビトンボなどの水生昆虫の他、サワガニやサンショウウオなども採捕されました。
- カワゲラやトビケラなどきれいな水に棲む水生昆虫が特徴的でした。



調査場所



採取した水生昆虫



コカクツツトビケラ



ヘビトンボ



キカワゲラ



サンショウウオ



ヒゲナガカワゲラ

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。

